

丘の上の学舎

～若い芽・強い木・愛の花～



令和5年6月6日

「三本の柱」を大切に

校長 平田 昭輔

新学期を迎えて、早くも2か月が過ぎました。今年度は、昨年度と比べると多くの教職員の異動がありましたが、子供たちへの想いのある教職員が多く集い、今年度も共通理念である「すべては子供たちのために」を体現してくれています。子供たちの笑顔はますます輝きを増し、それぞれの目標達成に向け日々頑張っている様子を見てまわるのが、校長としての毎日の最大の楽しみであり、児童生徒一人一人からたくさんのエネルギーをもらっています。

PTA総会でもお話ししましたが、今年度は特に「三本の柱」を大切にしたい学校運営を行いたいと思っています。校内では、「小学部」「中学部」「高等部」それぞれの充実と、小中高の系統性をより意識していきます。工事中で、二つに分かれていた職員室も、2学期からは一つになる予定です。「職員室」「事務室」「舎務室」の三本の柱も大切にと思っています。

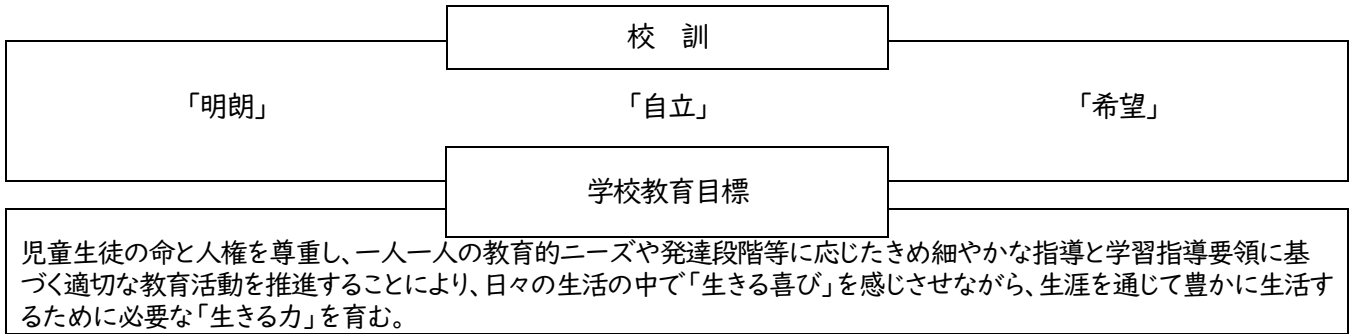
また、「本校」「訪問教育」「寄宿舍」の三本の柱もそれぞれ重要だと考えています。全校児童生徒120名（小学部50名、中学部30名、高等部40名）中、訪問教育生は16名、寄宿舍生は14名です。各家庭や施設で授業を待っている児童生徒のため、訪問教育担当は日々楽しみながら授業準備を行い、笑顔で出かけていきます。寄宿舍においては、寄宿舍指導員が、家庭と学校との連携を図りながら、できるだけ温かい家庭的な雰囲気の中で、生活基盤を整え、将来に向け自立し社会参加する力を培うことができるよう支援を続けていきます。

新型コロナウイルス感染症は、5月8日をもって5類感染症に移行しました。この三年間は、感染対策上の必要性から、児童生徒同士の触れあいを基盤とした集団的な活動や体験的な活動等において多くの制限や工夫を行ってきました。5類移行後は、少しずつ「4年振り」に再開されるものが増えてきていますが、単にコロナ禍以前の姿に戻るのではなく、これまで制限されてきた学校教育活動のうち真に必要なものを回復させるとともに、コロナ禍で培った多様な教育実践の工夫を取り入れることにより、本校らしい「新しい学びのあり方」へ進んでいければと思っています。同時に、感染拡大防止のため、児童生徒の健康観察、換気の確保、手指衛生等の日常的な対応は、継続して実施していきます。

本校・訪問教育・寄宿舍の教職員それぞれが連携し、「三本の柱」を意識し合いながら、一体感のある学校を作っていきたいと思っておりますので、今年度も保護者の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



令和5年度 学校経営方針



めざす学校像	めざす児童生徒像	めざす教職員像
○児童生徒の命の尊さや人権を尊重し、一人一人を大切にする学校 ○児童生徒が安心して明るく生き生きと学べる学校 ○地域の特別支援教育の核となる学校	○心身ともに健康でたくましく生きる児童生徒 ○思いやりの心を持ち、心豊かに生活する児童生徒 ○夢や願いに向けて挑戦し、社会に貢献する児童生徒	○児童生徒の心情を理解し、児童生徒と共に歩む教職員 ○肢体不自由教育、重複障害教育の専門性を追求する教職員 ○保護者や地域から信頼される教職員

